

事業提案を募集したい課題（一覧）

テーマ	背景	解決したい課題
1 災害発生時等における避難行動要支援者の避難支援・安否確認の仕組み	本市では、防災対策基本法が令和3年に改正されたことを受け、避難支援が必要な市民に対する個別避難計画の作成を進めている。また、熊本市防災基本条例においても、行政の役割として、避難行動要支援者の避難支援等が円滑に行われるための仕組みの構築、避難支援等を行うために必要な情報の収集・整理とともに関係機関との共有及び連携が深まるように努めることを規定している。過去の災害の経験も踏まえ、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に市民の安全を確保する仕組みを強化したい。	避難行動要支援者がそれぞれの個別避難計画の通りに避難できたかについて、適時にかつ網羅的に確認する仕組みがない。
2 児童の登下校時の安全対策強化	本市では、不審者事案が増加傾向にある。共働き世帯が増加するなど児童の登下校の在り方が多様化する中、児童を危険から守るため、市公式LINEを活用した不審者情報等の発信や、防犯パトロールの実施など対策を講じているが、従来型の活動だけでは限界が生じている。保護者や学校、地域の目が行き届かず、「見守りの空白地帯」といわれる児童の登下校時の安全対策を強化したい。	- 児童の登下校時の状況を、リアルタイムもしくはリアルタイムに近いかたちで保護者、学校が把握できる仕組みを構築したい。 - 登下校中の児童に対し、危険を周知する仕組みができれば、なおよい。
3 本市への旅行者、関係人口を増やす新たな観光サービスの提供	コロナの流行により、本市を訪れる旅行者数の一時的な落ち込みを経て、今後は再び国内、インバウンドともに旅行者数の増加が見込まれる。一方で、コロナ禍で観光の在り方が変化し、マイクロツーリズムやオンラインツーリズムなど、地域の魅力を再発見し、シェアする動きがみられる。本市として、多様化する旅行者のニーズや価値観に訴求するだけでなく、関係人口を増やし、「熊本ファン」による地域の魅力の発掘、新たな価値の創出に繋がる仕組みを検討している。	- 本市発の観光情報が、一方向の情報提供に留まっており、市民、旅行者等が本市の魅力を発信する双方向の場を提供できていない。 「熊本ファン」を増やす仕組みが充分でない。 - 多様化する旅行者のニーズに対し、個別最適化され、かつタイムリーな情報提供ができていない。

事業提案を募集したい課題（一覧）

テーマ	背景	解決したい課題
4 公共交通利用やピーク分散など市民の行動変容に向けた情報提供の仕組み	現在、熊本都市圏における移動手段の割合は、約 6 割が自家用車となっており、過度に車に依存した交通体系が慢性的な交通渋滞を招く要因となっている。特に、朝夕のピーク時における渋滞が激しく、渋滞緩和に向けては、自家用車から公共交通への転換や時差出勤によるピーク交通量の抑制が必要な状況である。	- 市民の移動を自家用車から公共交通へ転換させたい。 - ピーク時に集中する交通量を分散させたい。 - 市民が、公共交通機関を効率よく利用するために提供すべき情報を把握したい。
5 自転車利用による慢性的な交通渋滞の緩和と回遊性向上による中心市街地の活性化	本市は、慢性的な渋滞解消に向け、都市交通の最適化の実現を目指しており、その手段の一つとして、自転車の利用を促進したい。また、中心市街地における公共交通機関、自動車の補完機能として自転車を利用することで、観光客や市民の通勤通学、買い物、ビジネスなど回遊性向上に寄与したい。 自転車の利用促進に向けた取組の一例として、市が運営する一部駐輪場でのキャッシュレス決済の導入やシェアサイクルの導入を実施しているが、利用情報等は活用できていない。	- 自転車への転換により中心市街地への自動車の流入を抑制し、慢性的な渋滞を緩和したい。 - 中心市街地における、観光客や市民の回遊性を向上させる仕組みを構築したい。
6 道路施設の維持管理の効率化・高度化	本市では、道路の破損個所の修繕や幹線道路等の定期的な点検、道路施設の老朽化対応など、道路施設全般の良好な状態維持に努めている。一方、こうした維持管理に充てられる人的コストや財源には限りがあり、効率的な維持管理の仕組みが必要である。 また、半導体企業の進出により、今後さらなる交通量の増加が見込まれる中、道路の重大な損傷の発生やそれによる交通への影響について適切な対応の検討もとめられる。	- 道路施設（舗装、側溝、安全施設等）の保守・点検作業に膨大な人的コストがかかり、業務を効率化したい。 - 市が管理する道路施設の点検・修繕履歴等を一元管理する仕組みを構築したい。